

アートをつばさ7 — 第104回光風会展 —

2017年6月27日付第253号以来、久しぶりの「アートをつばさ」をお届けします。「アートをつばさ」は、昨年度からの企画で、私が見た「アート」を紹介するシリーズです。今年、私はAAL（アート・アクティブ・ラーニング）を提唱しましたので、「アートをつばさ」が多くなるかも知れません(*^_^*)。

今号では、4月21日（土）午後六本木の国立新美術館で見学した「第104回光風会展」を紹介します。「光風会」は、明治29年（1896年）に黒田清輝を中心に発足した「白馬会」の流れをくむ美術団体です。町田博文画伯から、招待状をいただき見学に行きました。町田画伯は、光風会会員であると共に、日展の審査員でもあり、日本を代表する洋画家です。私が特に感動した4作品を下に紹介します。光風会会員の方による展示解説会にも参加しました。直接、画家の方の話を聞くと、たいへん勉強になります。

この日の午前中は、上野の東京都美術館で開催中の「ブーシキン美術館展」を観ました。パンフレットと絵ハガキを校長室前に展示していますので、参考にしてください。



- 左上から ①「華やぐモンテフリオ」町田博文 ②「原点回帰」渡邊裕公
③「時間軸」児島新太郎 ④「路」大谷喜男